

健康アドバイス

災害に対して一人ひとりができること

岡山県南部健康づくりセンター
医師 佐々木佐起子

災害による被害をできるだけ少なくするためには、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」が重要とされています。

「自助」とは、自らの命は自らが守る意識を持ち、一人ひとりが自分の身の安全を守ることです。特に災害が発生したときは、まず、自分が無事であることが最も重要です。そのためには、災害に備え、自分の家の安全対策をしておくとともに、家の外において地震や津波に遭遇したときの、身の安全の守り方を知っておく



とが必要です。また、身の安全を確保し、生き延びていくためには、水や食糧などの備えが必要です。治療中の疾患がある方は、医薬品についても主治医と相談して備えることをお勧めします。このように日頃から防災対策をしておくことで、もしもの時の被害を少なくするよう努めましょう。

〈岡山県健康づくり財団での取り組み〉 岡山県健康づくり財団 総務部 政近孝志

災害時には、施設の利用者様、患者様、職員の安全性を優先した上で、建物、設備、機器、ライフラインなど何らかの制約がかかる可能性が高いことから、これらの状況においても事業を復旧、継続していけるような体制が必要です。



そのためには発災前の被害の軽減、影響回避の備えとしての「防災対策」と発生時、発生後の対応・発災後の復旧の備えとしての「事業継続」の2つの取り組みが重要とされています。

これらの取り組みについて当財団では「水害」、「地震（火災を含む）」、「新型コロナウイルス」の3種類の災害に対し、対応できるよう、現在、防災マニュアル兼事業継続計画（BCP）マニュアルを策定中です。



雑記帳

御南学区誕生30周年

御南小学校ができたのが平成6年、今年で創立30年になる。今小学校と白石小学校が併合して西小学校が誕生したのが昭和34年。白石小学校の規模が小さいということだった。

皮肉にもこのころからこの地域の都市化、つまり児童数が増加し、学区の変遷が始まる。昭和46年、上中野と鹿田学区の一部とで大元小学校が誕生、更に、昭和55年、白石、花尻と吉備学区の一部とで陵南小学校が誕生。それでも西学区のマンモス化を解消できない。いよいよ西小学校を二つに分けることが避けられない。どこを境に分割するのか、また、学校の場所をどこにするのか、当時、地域にとっては極めて関心の高い大きな課題であり、当然のことだが大論争になる。笹ヶ瀬側の東側は、区画整理がされた地域で学校用地を生み出すことが難しく、今保の現場所になったが、当時地域をまとめる立場にあった先人達の苦労は計り知れないものがあった。

こうした経緯を経て誕生したのが御南小学校だ。都市化の波にもまれ、地域が大きく変わったことを象徴するのがこの地域における小学校区の変遷だろう。考えてみれば、鹿田小学校と吉備小学校の間には西小学校一校だけだったが、この70年の間に3校が誕生し、4校になったことを見れば明らかである。見渡す限りに田園が広がる農村地帯。狭い道に人家はまばら、広い農業用水路があり、もっぱら輸送手段は川船といった、のどかな風景が広がっていた。昭和46年に岡山県南広域都市計画が定められ都市計画事業として始まった区画整理事業の本格的な実施が大きな変化をもたらしたと言える。急激な都市化は地域の文化や伝統を大きく変化させた。

そんな中、地域の歴史から消え去ろうとしているのが、日本有数のイ草の生産地帯であったことである。良くも悪くも地域の歴史を語る上で欠かせないものだ。変化の流れが余りにも速く、記憶から消えようとしている。このことについては、またの機会に述べさせて頂きたい。独り言